

2023.1.15 平山台健康・市民支援センターの今後を考える意見交換会主な質疑

No.	主題	主な質問	市回答要旨
1	現在の場所の重要性	・この場所がベストの施設で、移動が困難な高齢者にとって代替施設は考えられない。 ・不便でも、静かなこの場所であるからこそ良いということもある。	・この場所で、どのような機能を維持していくのか、また、そのためにはどのような施設が必要なのかについて、ご相談させていただきたい。この場所が全く使用できなくなるわけではない。 ・グラウンドについては建物閉鎖後も使用できる見込みである。
2	現在の場所の重要性	・この土地は売却予定はあるのか。	・この土地を売却する予定はなく、引き続き市の土地として使用していく予定である。
3	施設の利用について	・建物施設については、いつまで使用できるのか。 ・段階的に閉鎖といわれたが、いつまで使えるかなどの具体的な方針はあるのか。	・基本的には、令和10年度末までとなる。 ・段階的には、代替の方法が決まった団体や機能から移転等を始めていくということを想定している。
4	建物の耐震性について	・校舎は耐震性がなくても、単純な構造の体育館のみであれば、耐震上問題ないのではないか。	・体育館も校舎と同時期に築造されているため、旧耐震基準に基づいており、同様の状態であると認識している。
5	コミュニティ活動の拠点としての重要性	・平山の地域の生活にとって重要な施設となっており、機能の維持をお願いしたい。	・詳細は未定なので、前向きな形で市民の皆様とそのありかたについて検討していきたい。 ・市としても、現在のセンターの持つコミュニティ施設としての機能は重要であると認識しており、その継続のためにどのような方策があるのかを市民の皆様と考えていきたい。 ・建物ありきではなく、機能分散や既存の民間サービス・既存施設などで展開することも視野に様々な手法について検討をしていきたい。
6	コミュニティ活動の拠点としての重要性	・平山台地域には、他にコミュニティで活用できる施設がない。坂の上のこの場所にあるからこそコミュニティの活動に利用できている。	・この場所、この地域で、どのような機能が必要なのか。その機能を維持していく為の手段は何なのか、利用者、入居団体など皆様と一緒に話し合いながら進めていきたい。 ・この場所が全く使用できなくなるわけではない。 ・平山地域には、空き家などもあるため、その活用も検討していければと考えている。
7	防災施設としての有用性	・グラウンドが指定緊急避難場所として指定されており、施設が閉鎖された場合に、避難ができなくなってしまう。代替の場所はあるのか。	建物閉鎖となった場合でも、グラウンドのような施設があれば、指定緊急避難場所として活用することは可能である。
8	防災施設としての有用性	・校舎及び体育館が予備的避難所に指定されており、そのことが市民の安心につながっている。施設がなくては避難ができなくなってしまう。高台を利用した避難所としても利用できる施設を考えて欲しい。	・避難所としての代替案が具体的にあるわけではない。この場所が、どのように活用されるかによって対応も異なる。 ・防災機能としてのこの場所の有用性は、市としても認識しているため、全体の検討の中で、防災機能についても合わせて検討していきたい。
9	防災施設としての有用性	旧小学校時代に造られたプールは周辺地域における火災時の消火用水と想定されており、なくなってしまうのは問題なのではないか。	・プールについては、建物閉鎖後も消防水利として利用を継続していくか、プールに代わる消防水利を設置するか、検討していく。
10	八王子市との関係について	・センターの土地は、一部（グラウンド）八王子市であると聞いている。今後の使用方法について、八王子と協議が必要なのか。	・センターの土地の一部が八王子市に属しているのは事実であるが、建物がなくなるからといって、土地も一緒になくなるわけではない。土地利用については、法的に八王子市との協議が必要な可能性もあるので、その際は、必要な手続きを行っていく。

No.	主題	主な質問	市回答要旨
11	平山地域の高齢化について	・市の説明では、平山地域は高齢化が進んでおり、お金をかけて支援する必要はないと考えているように聞こえる。 ・平山地域は消滅する一方の地域ではない。 ・平山地域には、若い世代も転入してきており、高齢者だけでなく、より若い世代への魅力を磨いていかなければならない。そのことが、地域全体の活性化につながる。	・平山地域への支援を行わないということではない。地域にとって何が本当に必要なのかを検討するための意見交換会だと考えている。 ・次の世代の方にとっても何が必要なのかということを皆さんと考えていきたい。
12	施設閉鎖の決定について	・自主管の調査の時には工事後再開だと思ったから、閉鎖と聞いて驚いた。 ・閉鎖ありきで、今後の活用ができないような印象を受けてしまう。	・市としては、旧耐震基準という建物であり、安全性確保が困難な状況になりつつあるということで、期限を決めさせてもらった。目標年次を定めた上で、必要な機能について、皆様と協議していきたい。 ・この場所が全く使えなくなるわけではなく、今後については、市民の皆様と一緒に検討していきたい。
13	検討スケジュール等について	・このような意見交換会は1回で終わるべきではない。 ・検討するにしても、スケジュール観がわからなければ、意見も出しにくい。	・意見交換は今後も継続していく。 ・スケジュールについては、次回までに案を示したい。 ・今回は3か月後を目安に開催したいと考えている。
14	今後の検討方法について	・本来、このような検討には、協議会の設置が必要なのではないか。 ・センターには、団体に属さず、個人として集会室等を利用している人もいる。その人たちの意見の反映ができないのではないか。	・団体に属さず、個人として利用する方の声を聞いていく為にも、このような意見交換会は今後も継続していく。 ・今後は、検討の材料となるよう、いただいたご意見を整理し、方向性を示していきたい。
15	市からの方針や案の提示について	・市から今後の活用方針や案が示されなければ、意見の出しようがない。	・市が案を出すことで、議論を固定化してしまうことは避けたいと考えている。 ・どこまでできるかわからないが、次回までに、何かしらの案は示していきたい。
16	市からの方針や案の提示について	・センターの機能とニーズを把握し、表のような形で示してほしい。	・これから、入居団体等との打ち合わせなどを行い、機能分析を進めて、次回場でその結果を提示できるようにしたい
17	今後の活用案について	・意見を出すにあたっては、何の縛りもないのか。	・ここで担ってきた機能について、様々な手法、角度から、検討をしていく必要があると思っている。既存の施設やサービスなどでの代替性や、地域のかかえる課題などを踏まえた中で、皆様と一緒に考えていきたい。
18	今後の活用案について	・PFIなどの民間活力についても検討すべき	・今後の施設の機能・あり方を考えていく上で、民間活力についても検討を進めていきたい。
19	今後の活用案について	・健康、医療、保健所という機能をまとめて地域住民、近隣住民が使えるシンボルとしてのシビックセンターを作ってもらいたい。	・建物は機能・サービスを提供する一つの手段に過ぎず、まずは、建物ありきでなく、機能について様々なご意見をいただきたい。 ・建物があっても機能・サービスが提供できるかというところではない、例えば、地区センターは市内に66施設あるが、稼働率は低い。 ・これまで、平山台健康市民支援センターが担ってきた機能や将来的な地域の状況などを踏まえながら、この地域にとって本当に必要な機能は何なのかについて、利用団体、入居団体、地域の皆様と話し合いを進めます。
20	意見交換の周知方法について	・会長も市も数年で担当が変わり、意見が変わるので、関係者には今日の内容が伝わるようにしてほしい。	・掲示板やホームページ等、できるだけ皆様にご覧いただけるように周知方法は検討する。要点録についても、お示ししていきたい。